第1回日韓知事会議概要報告

平成 11（1999）年 11 月 8 日～12 日

全　国　知　事　会

【　目　　次　】

Ⅰ　第１回日韓知事会議の概要　１

１．会議　１

２．議事概要　２

３．共同記者会見　３６

Ⅱ　要人表敬の概要　４０

Ⅲ　大韓民国「全国市・道知事協議会」代表団滞在日程　４４

はしがき

本会は、１１月８日から１２日までの間、高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長（ソウル特別市長）を団長とする代表団一行を日本に招待し、９日に東京で第１回日韓知事会議を開催した。

会議においては、「日韓の交流拡大及び地方自治の発展について」を議題として両国知事及び市長が熱心に意見交換を行い、地方レベルの相互交流・地方分権を促進することや、次回会議を 2001 年に韓国で開催することを決定した。

また、代表団一行は、小渕内閣総理大臣、保利自治大臣を表敬訪問したほか、東京都、埼玉県、鳥取県を訪問して知事等関係者と会談を行い、両国の地方自治、文化交流、産業等について意見を交わすなど日韓友好親善の実を高めた。

なお、今回特に 2002 年ワールドカップサッカー大会が日韓両国で共同開催されることから、横浜国際総合競技場及び埼玉県営サッカースタジアムの開催施設を熱心に視察した。

この報告書は、上記会議をはじめとする行事についてその概要をまとめたものである。

なお、今回の代表団訪日に当たり、ご配慮いただいた関係各位に深く感謝申し上げる。

Ⅰ　第1回日韓知事会議の概要

1.会　議

（1）　日　時：　平成11年11月9日（火）14：00 ～ 16：20
（2）　場　所：　都道府県会館　知事会会議室
（3）　議　題：　日韓の交流拡大及び地方自治の発展について
（4）　出席者：

（日本側）　全国知事会会長

埼玉県知事	土屋義彦
青森県知事	木村守男
秋田県知事	寺田典城
新潟県知事	平山征夫
鳥取県知事	片山善博
鹿児島県知事	須賀龍郎
東京都副知事	青山・
京都府副知事	木村功
大阪府副知事	梶本徳彦
兵庫県副知事	井戸敏三
山口県副知事	大泉博子
福岡県副知事	長澤純一
佐賀県副知事	大竹邦実
長崎県出納長	出口啓二郎
大分県出納長	外山邦夫
全国知事会事務総長	紀内隆宏

（韓国側）　大韓民国「全国市・道知事協議会」会長
ソウル特別市長
高建

大韓民国「全国市・道知事協議会」副会長
釜山広域市長
安相英

大韓民国「全国市・道知事協議会」副会長
全羅南道知事
許京萬

大韓民国「全国市・道知事協議会」代表団
諮問官
李榮九

ソウル特別市　東京事務所長
金興權

韓国地方自治団体国際化財団　東京事務所長
宋英哲

（通　訳）　原谷治美
崔銀珠

２. 議事概要

（１）代表挨拶

○土屋義彦全国知事会会長／埼玉県知事

第１回日韓知事会議の開催に当たり、日本の都道府県知事を代表いたしまして、ごあいさつを申し上げます。

ご来日の高建会長を団長とする大韓民国「全国市・道知事協議会」代表団ご一行におかれましては、公務極めてご多端の折りにもかかわりませず、大韓民国「全国市・道知事協議会」を代表されて、我が国を訪問されましたことに、心から謝意と歓迎の意を表します。

皆様方をお迎えいたしまして、本日ここに第１回日韓知事会議を開催することができ得ましたことは、私どもにとりましても大きな慶びとするところでございます。

振り返りますと、1997年12月の全国知事会議におきまして、隣国韓国との自治体レベルの交流を行いたいという提案がございました。

私は常々、「政府対政府のオフィシャルな外交もさることながら、地方自治体みずからが先頭に立って、草の根の交流を進めていくことが、真の世界平和を実現する上で極めて重要である」と考えております。

したがいまして、この提案には大賛成でございまして、昨年の２月の金大中大統領の就任式にお招きをいただきました際、大統領に直接提案をさせていただきました。また、機会あるごとに韓国の要人の方々にもお話をさせていただきました。

そして、本年１月、韓国におきまして、首長連合組織である「全国市・道知事協議会」が結成の運びとなり、また、日韓知事会議の開催につきましてもご賛同をいただき、本日の会議が実現したわけでございまして、私といたしましても、まことにもって感慨深いものがございます。

昨年の10月の「日韓共同宣言」では、新たなパートナーシップ構築への決意が宣言をされました。また、同時に発表されました行動計画の中には、地方自治体間の交流の促進が盛り込まれております。

このような状況の中で、本日、「日韓知事会議」を開催することができ得ましたことは、両国にとりましても極めて意義深いものであると存じます。

時あたかも2002年には、世界最大の祭典でございますワールドカップ・サッカー大会が21世紀で初めて、またアジアで初めて、しかも日韓両国の共催のもとに開催をされます。

これを契機とした幅の広い交流の増進が期待をされております。

こうしたことから、本日の議題の１つが「日韓の交流の拡大」となっておりまして、両国の経済、文化などの交流の拡大・発展を目指し、本日は忌憚のない意見交換を行い、一層の緊密関係を築いてまいりたいと考えております。

また、もう１つの議題となっております「地方自治の発展」でございますが、我が国におきましては、今年の７月に地方分権を推進するための一括法が成立し、地方分権実現への大きな第一歩を踏み出したところでもございます。

日本と韓国では、都道府県と特別市・広域市・道の行政機能の相違はありますものの、民主主義の学校ともいわれる地方自治の確立に向けて、まずは、相互の自治制度への認識を深めることから始めてまいりたいと考えております。

本日の会議が、ご列席各位のご協力によりまして所期の目的を達成し、大きな成果を挙げられますよう、切に希望するものでございます。

また、大韓民国「全国市・道知事協議会」代表団におかれましては、本日の会議を初め、要人会見、地方視察を通じまして、我が国行政の実態をご理解賜りますとともに、その施策につきましても有益なご示唆をいただきますれば、まことにもって幸甚に存じます。

最後に、日本と韓国との友好親善のきずながますます深まり、拡大していくことを念願し、私のあいさつとさせていただきます。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

尊敬する土屋義彦日本全国知事会会長並びに各都道府県の知事及び副知事の皆様、お会いできて嬉しく思います。

第１回韓日・日韓知事会議に韓国代表団をお招きいただき、心から御礼を申し上げます。

私は、今日、第一歩を踏み出した韓日・日韓知事会議が両国の協力関係の新たなページを切り開いて行くものと信じております。また、この会議は両国の地方自治の新たな発展を共同で探るためのすばらしいきっかけとなるものと思います。

21世紀は都市の世紀、あるいは地方自治の世紀といわれております。どの国でも、地方分権は中央に対する挑戦ではなく、地方の分業、あるいは共同の作業であると認識されております。韓国と日本、両国は今、中央と地方の間の機能も再分配し、また財源も再配分することを進めております。私たち知事会議は、地方分権に関する情報を交換し、自治行政の経験を共有することで、両国地方自治の発展に資することができると思います。この

会議は、両国の交流と協力を実質的かつ目にみえる形で進める架け橋の役割をすべきだと思います。両国自治体間の姉妹提携を活性化させ、また両国自治体間の経済、行政、文化、体育、スポーツ、青少年、観光、人的交流を一層幅広く進めようということを提案申し上げたいと思います。

本日、両国自治体間の交流と協力を一層幅広く拡大していくことを議論することで、先般、両国の首脳が合意した21世紀韓日・日韓パートナーシップの構築の上で、実質的な貢献ができるものと信じてやみません。特に、アジアで初めて開かれる、そして21世紀世界最大の祝典である2002年のワールドカップサッカーを両国が共同開催することとなりましたことに関連し、この会議の開催は非常に時宜にかなったものと思われます。両国が2002年のワールドカップを成功させるためにも、私どもの会議は大きく貢献することができるでしょう。両国の自治体間の関係をより生産的かつ模範的なものにするため、両国代表の皆様は、本日、この会議の席上で活発な意見交換を行ってくださるよう、祈っております。

（２）意見交換

〇木村守男／青森県知事

まず、この場をお借りして御礼を申し上げながら、申し述べてみたいと思います。

青森県は、これまでも青森空港とソウルが定期航空路で結ばれており、いろいろとお世話になっていることを感謝したいと思っています。あるいはまた、今年の９月２日にも高建ソウル特別市長にはお忙しいところを、私自身が青森県の次代を担う若人をチャーター船で、日韓の青年交流、あるいは韓国の歴史や文化に触れるべく、人的交流という立場でお訪ねさせてもらいましたけれども、大変にお世話になったことを感謝したいと思います。

さらには、10月24日から26日にかけて、韓日両国女性指導者セミナーがございました。この際に韓国大統領閣下夫人初め関係者の皆さん方に、日本側参加女性がお世話になりました。僭越でございますが、私の家内も一緒させてもらって、大変お世話になったことを感謝したいと思います。

それでは、この機会に青森県のことを紹介しながら、今後の私どもの考え、希望を申し述べてみたいと思います。

青森県は北緯40度12分から41度33分、地球儀でみるとわかりやすく、北京と大体緯度が一致しております。そして、日本列島で青森県は、47都道府県の中で人口が約 148万、農林水産業を軸とし、地方分権が進展する中で、今、目標を定めて進んでいる青森県は、食料自給率が 127パーセントで全国第４位、水産が第５位です。極めて食料的には安定した地域です。日本に貢献しております。そして、世界の国際情勢がどうあろうとも、私たちは人類愛をもって貢献していける青森県を目指しております。

青森県は、知事さん方には恐縮ですが、日本列島で大変緑豊かな、最も自然の美しい、四季彩る雪国でもあります。そして三面を海に囲まれているわけです。世界に冠たる白神山地の世界遺産登録、それから十和田湖、八甲田など、極めて観光名勝の地が多いわけです。さらには、青森県は世界にご評価をいただいている作家の太宰治や石坂洋次郎、あるいは版画の棟方志功など、世界に誇れる先人を有しております。そして、日本列島の中では最北端の青森県が最も星空の美しい地域といわれております。さらには 5,500年前の縄文の都、三内丸山が縄文の歴史を塗りかえております。そういういにしえの都のあった青森県は、人情豊かな県民性を有していることを、私は誇りに思っております。

そして韓国との関わりは、これまでも多くいただいてきましたけれども、本年７月、私たちはスポーツに親しみ、スポーツに強い青森県を目指して、スポーツ立県宣言をしまし

た。本年、江原道で開催されたアジア冬季競技大会から大会旗をいただいてきまして、2003年には青森県が開催県となります。日本の名誉と青森県の威光をかけて、アジアの皆さん方と一体の中で、この2003年アジア冬季競技大会を成功させたいと思っておりますので、ぜひとも皆さん方のご出席方、ご来県もいただければ、幸いだと思っております。日韓の友好のきずなをこの場でも深めていきたい、こう希望するものです。

さらには、私たちは間もなく2001年、新たなる 100年の21世紀、あるいは3000年に向かっての新たなる1000年のスタートをお互いに切るわけですけれども、私はこの年を、子供の飛躍の年としてスタートを切りたい。高齢少子化社会の日本の中での青森県ですけれども、私は子供を重視する、そういう青森県を目指しております。今後、青少年の中でも特に児童・少年まで年齢を下げて、子供の文化ということに思いをいたして、市長、知事の皆さん方にもこれから具体的にまた実務者での協議をさせてもらいながら、2001年からは韓国の子供と青森県の子供の交流も、私は見出していきたい、こう希望しておきたいと思います。皆さん方のご理解をいただければありがたいと思っております。

それから昨年、青森県は文化観光立県を宣言しておりますが、この際に、第５回目の日韓文学シンポジウムが、来年、本県において開催されることになっております。文化交流の中で、来年の日韓文学シンポジウムが成功されるよう、期待をお互いしたいものだと思っております。

いろいろと申し上げたいことはありますけれども、もう１つ、感謝しておきたいことを言い忘れましたので申し上げますが、青森県はこれまで韓国の皆さんにお世話になった中で、韓国の舞踊団の方々が青森県の行事に参加してくれました。文化観光立県宣言の1998年です。ソウル市立伝統舞踊団が来県し、青森県民に大きな感動を与えてくれたことを感謝し、そしてまた、個人の心を披瀝して、結びたいと思います。

日本には「荒城の月」という名曲があります。同じく韓国にも、40年ぐらい前にヒットしたと伺っております。韓国の「荒城の月」も大好きです。そのテープをいつも、私は車で聞いていることをご披露させてもらって、今後のご指導をよろしくお願いして、終わります。

○安相英大韓民国「全国市・道知事協議会」副会長／釜山広域市長

釜山市長でございます。釜山は、韓国で最も南に位置しております。韓国第２の都市であり、首都圏との対象として南部経済圏の中心地であります。面積は 753平米、 384万ほ

どの人口であります。産業の構造は３次産業が主です。造船、自動車、履き物、皮革、繊維産業が主です。釜山は第２の都市改革のための準備を推進しています。産業構造の高度化のために、港湾、物流、履き物、観光など10大戦略産業を掲げて、これを中心的に進めています。そして、その都心地内には35万坪ほどの外国資本の導入を通じた情報、観光などを誘致する釜山情報団地事業を進めております。

また釜山の発展の潜在力であります東西の開発制限区域に、西釜山圏は釜山新港の建設などもありますが、これを通じて生産、物流の拠点として、東釜山圏は恵まれた自然を利用した観光産業のメッカとしても推し進めております。そして観光のメッカとして、現在、都市の再計画というものを進めております。この事業に関する投資促進に向けて、租税の減免、財産の賃貸、または補助金の支援などインセンティブを提供するなど、外資の誘致の環境を大幅に改善しております。

釜山では、開港 120周年以上の歴史をもっており、港湾、海運、水産の基地でもあります。港湾としての機能は、世界のコンテナの処理は世界で第５位です。また、私どもは21世紀のアジアの時代に備え、世界的な港湾、物流都市を造成するために、2011年を目標に、24船席規模の新たな港湾建設のために、既に97年度から工事を進めております。

そしてまた、釜山港の自治公社の設立を進めております。全国漁獲高の40パーセントを占める韓国第１位の水産基地であります釜山の北東アジア水産流通の中心として、国産水産物並びに資本誘致の拡大を通じ、水産加工産業の活性化のために、水産物、自由貿易地帯の指定をしております。そして、釜山国際水産物取引所を設置する計画であります。

また、私ども釜山は、朝鮮半島の最も東南に位置しておりまして、日本の縄文、弥生文化の発展に大きな影響を与えたものと思っております。そして、三国時代、高麗時代を経て、地属的な交流が推し進められてきました。このような交流が本格的化したのは1407年であります。釜山浦に倭館が設置されてからのことであります。釜山は、また日本へ派遣されました朝鮮通信使により、大きな貢献をしたと思われます。

このような釜山における日本との交流は、現在、日本の文化をいち早く取り入れる都市として、文化の拠点としても釜山という名前が挙げられております。そして、世界的な映画祭が、今年 208本の映画が上映されました。「巨大な幻影」という映画を初め、18本の優秀な日本の作品も上映されました。多くの映画ファンを魅了しました。日本の今村昌平監督の手形もつくられております。そして、海のフェスティバルの期間中に開催されたアジア・ロック・フェスティバルでは、バレンタインＤ．Ｃ．が日本の大衆歌手として、韓

国で初めて公演が行われました。ユーラシア、日本の地方自治体との各種のフェスティバルに、お互いのさまざまな文化に市民たちが接することができるよう、自治体同士の文化交流がさらに拡大することを祈願しております。

韓国と日本は、年間 280万の観光客が往来している最大の観光市場でもあります。そして、１日観光圏を形成している釜山でもあります。そして、釜山浦倭館整備と朝鮮通信使の行列再現と、来年初めからは日本と釜山間の豪華船の遊覧船でありますスタークルーズが運行される予定であります。また、新たな年を迎え、各種のさまざまな文化的なフェスティバルも準備されております。そして、来年の正月には釜山フェスティバルを準備しております。日の出を釜山でみようという、このようなプロジェクトも進められています。

釜山は2002年ワールドカップ開催都市の中の１つであります。21世紀に初めて開催される36億のアジアの人々の総合フェスティバルであります2002年釜山アジア競技大会の開催地として、友好増進と和合の幕開けとなることが期待されます。この大会は、2002年９月29日から開催されます。そして、43のＯＣＡ会員国から約１万 8,000人が参加するものと思われます。釜山市では、大会のために12の競技場を新たに建設中であり、１万 4,000人収容できる選手村も工事中であります。メインスタジアムとなります競技場は８万名収容規模となっております。現在、47パーセント工事が進められており、2001年５月までには完成する見込みです。ここは、ワールドカップも行われる計画であります。アジアの人々の真なる和合とフェスティバルの幕開けとなるよう、準備をしているものであります。多くの皆様方に釜山にいらしていただけることを、ここでお願いしたいと思います。

この会議が、両国間の地方自治体同士の中で大きく寄与することを期待しております。私ども釜山市は、積極的に協力していく所存であります。ありがとうございました。

○大泉博子／山口県副知事

皆様、こんにちは。アンニョンハシムニカ、山口県副知事の大泉博子と申します。よろしくお願いいたします。本来ならば、一番最初に手を上げまして、日本はレディーファーストの国と示したかったわけでございますが、２番目になりましたことをお許しいただきたいと思います。

本日、ここに出席いたしまして、皆様にお会いできましたことを大変嬉しく思います。土屋全国知事会会長を初め皆様方に感謝申し上げたいと思います。

山口県は、本州の一番西の端にございまして、アジアの玄関口として今日まで重要な役

割を担ってまいりました。特に、韓国とは地理的にも非常に近く、古くから人の交流、物の交流、情報の交流、さまざまな交流が活発に行われております。

今から30年ほど前の1970年に山口県の下関と釜山を結ぶ関釜フェリーが就航いたしました。そこで交流が一段と盛んになってまいりました。この関釜フェリーを利用していただきましたお客さんの数は、今年の３月末現在で 218万人、ゆうに山口県の人口 154万を越えております。経済、貿易面からみますと、1992年以降、山口県の国別の輸出額、輸入額におきまして、韓国が第１位となってございます。1996年、３年前に下関にできた建物、海峡メッセと申しますが、ここに下関・慶尚南道通商事務所と下関・釜山貿易事務所をご開設いただきまして、経済、貿易面での結びつきが一層深まったところでございます。そして、昨年の山口県の対韓国輸出でございますが、日本全体の約７パーセント、輸入は約14パーセントを占めているところでございます。

山口県は、1987年と申しますと、これは12年前になりますが、慶尚南道と姉妹提携を結びまして、以来、経済、教育、文化、スポーツ、青少年交流、各般にわたって交流を重ねてまいりました。さらに1997年には、中国にございます山東省と３つ合わせて、山口県、慶尚南道、そして山東省の三県省道トライアングル共同交流事業というのを始めました。現在、この３つで環境保全、文化財保護、そして大学生の交流というような事業を始めまして、実質的な交流協力へと、内容は深いものになってきてございます。

そしてまた、今年度からでございますが、お隣にお座りの福岡、佐賀、長崎の各県と、韓国側の、今日ご出席の釜山広域市、それから慶尚南道、全羅南道、済州道で構成されます日韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議に山口県も参加することになりました。この交流は、青少年の交流、それから環境技術の交流、水産関係交流、経済交流といろいろ、極めて幅広い共同研究事業に取り組んでいるところでございます。

よくいわれますが、21世紀は大交流の時代と考えられております。同時に、先ほど土屋会長からもお話がございましたが、これから地方分権が非常に進んでまいります中で、地域間の交流というのが、国レベルの交流をリードできる環境がさらに進んでいくと思われます。私自身も、個人的にでございますが、もともと国におりまして、県に赴任いたしましたけれども、政府対政府の交流と異なって、県と県、あるいは地域交流というのは大変丁寧で心の通う交流であるというように考えておりまして、必ずや国益につながっていくと考えるところでございます。グローバルな目でローカルに考えるという視点が、ますます重要になっていると考えられます。

山口県は、先ほど申しましたアジアへの玄関口という地理的条件と、もう１つの言い方として、西日本の結節点、ジョイントですが、そういう言い方もしているわけでございます。こういう地理的条件を踏まえまして、より国際的な視野に立って交流、提携、この２つをキーワードにいたしまして発展を目指すべきと考えております。その大きなきっかけとなりますのが、私ども、今から２年後でございますが、2001年の７月から９月までに21世紀未来博覧会、名前を「山口きらら博」と名付けておりますが、これを開きます。瀬戸内海に面した阿知須町に干拓地がありますけれども、この干拓地を活用しまして「いのち燦めく未来へ」をテーマにして開催するものでございまして、昨年11月には国のジャパンエキスポの認定も受けているところでございます。この「山口きらら博」では、国際交流パビリオンというのを計画しておりまして、韓国の慶尚南道、それから中国の山東省にも今、出展の協議をしているところでございます。

山口県としましては、国内外から 200万人以上の入場者を見込んでおります、この博覧会を､皆様方との交流を促進する絶好の機会と考えているところでございます｡是非皆様、２年後に、韓国の皆様も、日本の皆様もあわせてでございますが、最も近い隣人でございます我々の姿をみていただきたいと存じます。どうも今日は、ありがとうございました。

○許京萬大韓民国「全国市・道知事協議会」副会長／全羅南道知事

全羅南道の知事、許京萬と申します。まず、第１回韓・日知事会議の開催に当たり、尊敬いたします両国の市･道県知事の皆様とお会いできましたことを大変意義深く思います。今回の会議を機に、韓国と日本、両国自治体間の友好、協力が一層増進されることを期待いたします。あわせて、この会議の開催のため、多大なるご尽力をいただきました日本側の土屋知事を初めとする関係者の皆様に対しても､心からお礼を申し上げたいと思います。

全羅南道は、どこに位置するのか、ご存じのない方もいらっしゃるかと思います。韓国には16の広域自治体があります。その中で、済州島と光州、これはよく知られています。しかし、全羅南道は余りよく知られていません。もともと済州島と光州は、すべて全羅南道に入っていました。しかし、それぞれが独立し、全羅南道も１つの独立した広域自治体となりました。1960年代には、全羅南道の人口は 400万人でした。しかし、現在は 220万人に減りました。なぜならば、光州や済州島が別々に独立したためであります。

韓国の島の62パーセントが全羅南道で、韓国の水産資源も56パーセントは全羅南道からとれています。つまり、非常に資源に恵まれた地域であるといえましょう。そして、穀倉

地帯でもありました。農業が中心でした。したがって、農耕社会におきましては、全羅南道は最も富める地域でありました。しかし、産業化、工業化の過程で、全羅南道は韓国では最も立ちおくれた地域の１つとなってしまいました。

今、全羅南道は、全羅南道のもつ海洋資源を生かし、そして非常に原型をよくとどめている文化財を１つの財産として、新しい方向での発展を模索しつつあります。全羅南道は光陽湾圏と木浦圏、これを２つの軸として開発していく計画です。これに加え、新海洋時代を迎え、2010年には、ＢＩＥ（国際博覧会事務局）登録の博覧会としては韓国で初めて世界海洋博覧会を誘致すべく、現在準備を進めております。光陽湾は、環太平洋時代の交易の拠点となるコンテナ埠頭を中心とし、高速道路、鉄道、海運など、陸、海の交通ルートを現在建設中であります。そして栗村という地方産業団地、あるいは光陽製鉄と麗川国家産業団地、これを世界的な総合的な産業団地として開発していく計画です。

次に木浦圏ですけれども、中国と東南アジアの交易のための玄関となるところです。木浦には新しい外港を建設する計画です。また、その周辺には高速道路や鉄道、空港も建設して、広域の交通ネットワークを構築する計画です。そのほかにも、産業団地を幾つか開発する予定です。それとともに、全羅南道発展の潜在力、あるいは地域発展の拠点となるべく、光州市にありました道庁を務安の方に移転し、いわゆる西海岸時代に備えようとしております。2010年の世界海洋博覧会を、南海岸の美しい港町である麗水で開催すべく、現在誘致活動に取り組んでおります。

2010年の世界海洋博覧会は、2005年の名古屋博覧会の次に、５年後に開かれる博覧会ということになります。今年の６月には、韓国の国家計画として全羅南道への誘致を働きかけることになっております。2001年４月までにＢＩＥ、国際博覧会事務局に申請書を提出する予定です。2010年の世界博覧会については、韓国第１の水産力をもつ、我が全羅南道での開催に向けて、皆様方のご支援と、そしてご協力をお願いしたいと思います。

先ほど山口県の副知事からもご紹介がありましたとおり、全羅南道をはじめとする韓国の４つの市・道、そして日本の４つの県、８つの自治体が「韓日海峡沿岸市道知事交流会議」を構成して、これまで会議を進めてまいりました。その経験に照らして考えますと、この韓・日知事会議の交流を一層実のあるものにするためには、実務者レベルでのしっかりとした事前の協議が必要であると思います。そこで、実務協議者レベルの協議体を構成することを提案申し上げたいと思います。

私のこういった提案を終えつつ、私は、この韓・日知事会議のもつ並々ならぬ意義とい

うものをいま一度強調したいと思います。中央政府間の協力もさることながら、自治体の相互交流のもつ意味は日増しに高まっている、これに注目すべきであります。こうした国際社会の流れを勘案する場合、韓・日知事会議のもつ時代的な意義、あるいは歴史的、経済的な意味合いは大変大きいと思われます。このたびの第１回目の会議を機に、未来志向的な両国の友好関係を地方レベルにまで拡大し、今後、２年ごとに交互に、定期的にこの会議を開催することで、自治体レベルの友好関係を築いていけたらと思います。そして、最も理想的な国際自治体の首長会議として、この会議が発展していくことを願っております。ありがとうございました。

○寺田典城／秋田県知事

秋田県知事の寺田でございます。よろしくお願いします。

秋田県のパンフレットがお手元に配布してありますので､開いていただきたいのですが、位置が真っ赤な色で示してあります。秋田県の人口は日本の 100分の１で 120万人ぐらいでございます。ＧＤＰは日本の 0.8パーセントで約４兆円ぐらいということで、特徴としては、人口密度が日本の平均の３分の１以下でございますので、住みやすい県でございます。有名なのはお米とお酒でございまして、美人を育てる秋田米ということで、その秋田美人というのでも有名なのですが、特に韓国のキムチと秋田のご飯で一緒に食べると、恐らく世界で一番の料理ではないかと、そのように宣伝をさせていただきたいと思っております。

秋田県は、基本的には鉱山技術が大変進んだ県でございまして、これに関連する新しい今のリサイクルとか公害関係の技術、特にエレクトロニクスとか、電子関係の技術とか、そういうことで技術立県を目指しております。

今回の課題でございますけれども、県といたしましては、環日本海交流をこれから特に力を入れていきたいということで、将来に向かいまして大経済圏となる、もちろん大韓民国を初めとするその他の諸国の大きなポテンシャルを、これからの経済の交流や人的交流を促進するために、環日本海交流拠点構想を10年度に策定しております。私の生活の実感としては、大韓民国の製品が我々の身の回りにも大変多く入ってきていることは実感できますが、まだそれでも対日貿易が赤字のようでありますので、秋田県のような地方にも韓国の方から経済ミッション等を派遣していただき、経済交流の促進を図ってもらいたい、そのように思っております。また、本県においては、先端技術や木材加工等において、民

間の高い技術力、また公設試験研究機関も備わっておりますので、貴国に対しまして貢献できることは大いにあろうと、そのように思っております。その面も含めて交流を図りたいと思っております。

また、交通関係の航空定期航路の関係でございますが、秋田県は平成３年以来、秋田空港からソウルへの定期路線開設を目指して、官民を挙げて運動を展開中でございますが、今年度は特に大韓民国の方から秋田空港へのチャーター便が大変好調でございました。修道院とか温泉巡りということでの方々が多うございまして、特にこれからどんどん開発がなされていくのではないのかなと。また足を運んでいただきたいと思います。秋田県民は、よく韓国にもまいりますので、それなりの事情はわかっておりますけれども、日本の国にも是非、そういう点でおいでになっていただきたい。

また、2002年には先ほども話題になりましたが、サッカーのワールドカップの日韓共催を踏まえて、地方レベルの国際交流を一層促進するということで、日本国内の地方空港への定期路線の増設も大いに期待しているわけでございます。

また、釜山とのコンテナ定期航路がございまして、現在、秋田‐釜山が大変好調でございます。前年比約50パーセント増ということで、特に釜山港を経由して北欧関係とか、そちらの方からいろいろな製品、木材も含めて入ってきておりますし、本県では、韓国航路のコンテナ航路開設以来、韓国機械展とか、そのような参加企業に助成措置も講じておりますし、韓国との経済交流の促進にも努めております。そういうわけでコンテナの直行便もあるわけでございますから、これからそれをさらに拡大して、経済交流をますます進めてまいりたいと思いますので、その点も留意していただきたいと思います。

この大韓民国と県とのつながりを、より一層発展できますことをお願いしまして、私から、簡単でございますけれども、秋田県のお話をさせていただきました。

○片山善博／鳥取県知事

皆さん、こんにちは。私は鳥取県知事の片山でございます。私、今回、初めて当選いたしました。本日は韓国の皆様方にお会いできることを、大変嬉しく思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

私は、「鳥取県ガイドブック」と「鳥取県と韓国の交流のあゆみ」の資料を２つ用意しております。最初に小さい方の資料の６ページをみてください。ここに日本の地図がありまして、先ほど秋田県の知事さんも地図で赤いところをお示しになられましたが、鳥取県

も赤い表示をしております。日本の西の方の、日本海側に面した県で、韓国に近い県であります。

以前は、私どもが面しております日本海という海は少し暗いイメージで、余り交流が活発でない海でありましたが、最近、世界情勢の変化に伴いまして、この日本海をめぐって人や物の交流が大変活発になってきております。鳥取県では、６年前までは外国との貿易船の定期航路は全くありませんでしたが、最近では韓国の釜山、それから中国の大連、上海、廈門、台湾の高雄、さらにはシンガポールへの定期航路もできております。特に韓国の釜山とは、これまで週に１回の便でありましたが、今年の10月から週２便に増便になっております。これからもますます韓国や、対外諸国との間の貿易は活発になると思っております。お互いに、日本海を挟んで、日本海側の地域と、それから韓国の日本海側の地域とが協力しながら発展をしていきたい、お互いに環日本海時代の中心地となりたい、こう思っております。

こんな考え方のもとで、今、いろいろな交流を、鳥取県は韓国と進めておりまして、今度は大きい方の資料をみていただきたいのですが、これを開いていただきましたところに５人の男の人が手を上げているのがあると思います。これは先月、韓国の江原道の束草で開かれました環日本海圏地方政府国際交流・協力サミットの写真でありますが、一番左におられます大きな人が中国の吉林省の省長、それから私、それからその右におられますのが、韓国の江原道の金振・知事であります。その右がロシアの代表、その右がモンゴルの代表です。これから、日本海に面したこれらの地域がお互いに協力しながら発展を目指そうということを話し合ったわけであります。

次のページの一番上は、これは鳥取県で先月開いたのですが、「2002年ワールドカップと日韓交流」と題しまして、講師はワールドカップの日本側の事務総長であります遠藤安彦さんでありますけれども、これからのサッカーを通じた日韓交流ということで講演会を開きました。韓国からも参加をしていただきました。

その下の写真は９月と10月に韓国の江原道の束草で開かれました国際観光エキスポ、そのときに鳥取県もブースを出しました。大変多くの方に来ていただきまして、博覧会全体は 200万人の観光客が来たそうでありますが、鳥取県のブースには92万人の方に来ていただきまして、鳥取県の魅力を知っていただくことになったと思っております。

その下は、これは鳥取県の智頭町という町と韓国の江原道の楊口郡とが姉妹提携を先月いたしました。これは楊口郡の、郡の建物であります。後ろの方で拍手をしているのが私

と江原道の金振・知事であります。

その下は高齢者の交流です。鳥取県と江原道は高齢者の交流を進めておりまして、毎年鳥取県から数百人の人が飛行機や船で江原道に行ったり、それから逆に、江原道から船や飛行機で高齢者の方が来ておられます。歌を歌ったり、書道をしたり、囲碁をしたり、ダンスをしたり、スポーツをしたり、いろいろな交流を今、高齢者がされております。

その次のページをみていただきますと、これは子供たちの交流でありまして、上にあります２つは高校生の文化交流です。韓国の江原道の女子高校の生徒の皆さんに来ていただきまして、鳥取県の高校で交流をしたときの写真です。

その下は子供たちのサッカーの交流でして、先月、江原道の春川市の湖畔初等学校という、小学校でサッカーの交流をしました。私もこれに参加しまして、始球式に出てまいりました。

それから右のページの上の方の写真は、韓国の江原道の横城郡の子供たちと、それから鳥取県の八東町というところの子供の交流でありまして、伝統芸能でありますとか踊りとか太鼓とか、そういうものをお互い、披露し合いました。

その下は、江原道、吉林省、鳥取県がちょうど交流を始めて５年になるものですから、５年を記念して、今年、「江原道・吉林省芸能フェスタ ’99」こういう催し物を開いたときの写真であります。

次のページを開いていただきまして、一番右の下にまんがが描いてあると思いますが、これは鳥取県に大山という 1,711メーターのきれいな山があります。その山の横に孝霊山という少し低い山があります。この山は昔々、朝鮮半島にあったものを鳥取県に船で運んできたという伝説があります。韓国の山が高いか、日本の大山が高いか背比べをしようというので、船に積んでもってきたら、日本の大山の方が高かったので、そのまま置いて帰ってしまったという、そういう伝説があります。そんなことで孝霊山という名前がついているのですが、その孝霊山のふともから左にありますような、非常に貴重な、歴史的な遺跡が出ております。左側のページの上は彩色壁画、色のついた壁画でありまして、日本では奈良の法隆寺と、この鳥取県の上淀廃寺というのですが、この遺跡だけであります。そのすぐ隣で、下にありますような大きな遺跡が妻木晩田遺跡というのですが、非常に巨大な、弥生時代の遺跡が出ております。

それから右上のページは、これは倉吉市というところで発掘された遺物ですが、上にありますのは佐波理匙、これは韓国式のスプーンだといわれております。これは奈良の正倉

院にも同じようなものがあります。

その下に土器の写真がありますが、この土器が出ました遺跡からは、オンドルの跡が出ております。韓国式のオンドルと似たような、そういう形式の遺跡が出ております。こんなことで、もう昔々から鳥取県と韓国との間には深い交流が、海を挟んであったものと考えております。

最後のページは、これは日本でいいますと江戸時代のものなのですが、1819年に韓国の、今でいいますと慶尚北道の平海から船が、鳥取県に漂着をしました。そのときの絵でありまして、船長以下12人の方を助けて、その方々を長崎まで運んで、長崎から対馬、釜山を経由して蔚珍郡まで帰られたという歴史が残っております。下にありますのは、そのときの船長の安義基さんという方が鳥取藩の武士に対して書いた御礼状であります。これを記念しまして、一番最初のページにありますように、数年前に鳥取県の赤碕町というところに、これは船が漂着したところでありますけれども、そこにこんな記念碑を、これからの韓国と日本、鳥取県との交流をさらに活発にしようという願いを込めて建てたものであります。

これから私は、韓国と鳥取県との交流をさらに活発にしたいと思っておりますけれども、特に考えておりますのは、１つは子供たちの交流であります。子供たちは、言葉が通じなくても、交流をしますとすぐに仲よくなって、非常にいい関係ができてきます。それからもう１つは、私どもが直接今、仕事をしております地方自治でありますけれども、韓国も日本も今、同じような課題、同じような困難な問題に直面をしております。例えば今、日本では、市町村合併が大変大きな課題になっておりますけれども、韓国では数年前に市と郡の市郡統合をされたと思います。そのときの経験というのを、日本は大いに参考にすべく、学ぶべきだと思っておりまして、今、鳥取県では江原道で行われました市郡統合の様子を調査、研究しているところであります。そのほか、ごみ処理施設のような、そういう迷惑施設の設置についての問題でありますとか、農業技術でありますとか、歴史文化交流でありますとか、そういう交流をこれからますます深めていきたいと思っております。

鳥取県は、江原道と姉妹交流をしておりますが、鳥取県内の市町村もいろいろなところと交流をしておりまして、先ほどオンドルの遺構が出たという倉吉市は、今日、おみえの全羅南道の羅州市と交流をしております。これはナシの交流です。羅州もナシが有名だと思いますが、鳥取県もナシが有名でありまして、ナシの交流をしております。それから、鳥取県の県庁所在都市の鳥取市は忠清北道の清州市と交流をしております。あと、鳥取県

s

内の市町村では、江原道の中の市、または郡と活発な交流もしておりまして、これをこれからも続けていきたいと思っております。どうかよろしくお願いします。

○平山征夫／新潟県知事

新潟県の平山です。６月にワールドカップの日本・韓国開催地10都市同士の交流の場を韓国側がホストで開いていただきまして、ありがとうございます。そのとき、ソウル市長さん、釜山市長さんにもお目にかかって、大変温かいおもてなしをいただきましたことを、心から感謝申し上げたいと思います。また、そのときに、２年前の経済危機を乗り越えて見事に立ち直り始めている韓国の経済の状況もつぶさに拝見させていただきまして、本当にそのたくましさに、景気の悪い日本からみると、うらやましさ半分、眺めていた次第であります。

古い時代からの韓国と新潟との交流は省略させていただきますけれども、戦後、この日本海――日本海といわせていただいていますが、日本海という言葉を使ったと同時に東海という言葉をあわせ使っていることにさせていただいて、ご了解いただきたいと思います。私は韓国へ行きますと、よくいわれるのですけれども、新潟という名前を聞くと、韓国の方々は複雑な思いで聞く都市の名前ですと、このようにいわれます。戦後、北朝鮮へ行く北送船という、赤十字の事業として唯一開かれていた港が新潟港であったために、韓国の方々からみると、そういう思いのある土地の名前であります。その後、赤十字の事業ではなくなりましたけれども、現時点におきましても、新潟から、多少、ほかの港からも出ますけれども、北朝鮮に船が行っているわけであります。

新潟と韓国のそうした関係の中で、経済的にいろいろな意味で活発な交流が始まりましたのは1978年に大韓民国の総領事館が新潟に開設されたのが１つのスタートでありました。そして翌年、79年に新潟 - ソウル間に定期航空路が開設されまして、現在週５便という、年間６万人の人が行き来しております。そして1990年、ソウルに県のソウル事務所を開きました。47都道府県、自治体の中では最初の事務所の開設でありました。現在も総員５名で活動している状態でございます。そして、1991年に新潟と釜山の航路が開設されました。今、毎日のように釜山経由の韓国船籍の船が中国から、あるいはいろいろなところからほとんど釜山を経由して、新潟港に入っているという状態でございまして、まさに新潟の港は釜山とつながっているということであります。

そういう中で、学校同士の姉妹校、あるいは市同士の交流等、現在たくさん起こってお

りますが、その中で１つ、２つ、ちょっと申し上げたいと思います。１つは、この日本と韓国の交流、私も知事になって７年になるのですけれども、事務所があるということ、そして来年、開設10周年を迎えるというようなことで、２年に１度ぐらいお邪魔しているのですが、この間でも随分変わってまいりました。最初、事務所を開いたときから現時点までの事務所の活動というのは、主としては観光と物流であります。そして同時に農業研修等のお手伝い､あるいは新潟の企業が韓国に進出する際のお手伝い等々がございましたが、本格的な経済的な交流というのはなかなかできませんでした。大きな１つの変化は、今年に入りまして、日本と韓国との間の貿易がかなり全面的といいましょうか、文化の自由化と同時に貿易面の自由化もかなり進み出していまして、本格的な日本と韓国の経済交流が新たな段階を迎えているのではないかという意味が１つあります。

そして、経済危機を乗り越えて、新しい時代に向かって韓国の経済が再生化されていく中で、日本と韓国の経済関係が今後どのような役割を、お互いに果たしていくのか、このことは大変大きな日韓の問題の１つだろうと思います。そのときに、その中で自治体がどういう役割と働きをするのか、企業同士の交流も含めて考えていかなければいけない１つのテーマかなと思っています。

もう１つは、北東アジア経済会議というのを毎年１月ないし２月に開いて、10回になります。来年の２月に11回目になります。これは、中国の東北３省、モンゴル、韓国、北朝鮮、日本、そしてオブザーバーにアメリカが入っていますけれども、この６カ国で10回重ねてまいりました。この間、いろいろな発言がございましたけれども、ここ２、３回のテーマはかなり集中されてきております。１つは貿易の自由化をさらに進めるためにどういうことが必要であるか。そしてもう１つは、この北東アジア経済地域の物流のルートをどうやって確立していくか。そして３番目は、環境の問題を、お互いどうやって維持していくか、この３つであります。

まず環境の問題についていいますと、東海、日本海の汚染をできるだけしないようにしていこうということで、今、相互の協力を呼びかける動きが出始めています。地中海にいたしましても、この日本海も同じですが、閉鎖海域の環境を守るということから、その地域の国際協力がスタートしたという歴史的な事実はヨーロッパ等にも、ほかにもあるわけでありますので、随分、遅くはなっていますけれども、この日本海の海洋の汚染をしないという環境への協力をもってこの地域の協力体制を組んでいく必要があるだろうと思っています。

同時に、酸性雨という問題が今、出ていまして、酸性雨のモニタリングセンターという仮の研究所を新潟に今、日本の環境庁でつくっております。今後の国際会議において、この扱いをどうするかということは課題となりますけれども、韓国、中国、一緒になって、この北東アジア地域の酸性雨、そしてそれは、ひいてはエネルギーの問題になりますので、地球温暖化に対する対応について、協力体制を組んでいくということにもつながる話でありまして、この環境問題を自治体同士、そして国同士で協力していこうということになっています。

２番目の物流については、各国の経済状況が極めて発展段階が異なるということで、これまではお互いの物流についての要望だけを出し合うという感じだったのですが、ここに来て、それぞれの問題点を一緒に解決していこうという動きになっています。この８月に、韓国の方がつくっている中国籍の船会社だと思うのですが、それが、釜山から羅津を通って新潟に入るという三角航路が初めてできました。北朝鮮から直接日本に貨物船が入ってくるということになりまして、物流ルートが１つ、穴があきました。もう１つは吉林省から通って、この羅津を通るのと、もう１つはロシア側のザルビノに入るルートが、中国とロシアで協力して、鉄道がこの８月に同じようにできています。将来、この地域の物流の海上、陸上のルートが活発化してくるだろうと思っております。

さらに貿易関係につきましては、今、申し上げましたような経済的な関係が改善、あるいは発展する方向に来ておりますので、この地域の北東アジア貿易をどうやって活発化するか。と申しますのは、ロシアの極東地域は、資源はたくさんもっていますけれども人口は少ない。中国の東北３省は、極めて豊富な労働力をもっている。日本と韓国はすぐれた技術と資本力をもっている。お互いが助け合い、組み合わさることによって、１つの経済圏としての発展が望まれる。しかしながら、種々の政治的な課題等もあって、政府間レベルでの協力体制がなかなかできていないという状態であります。そのことを、この北東アジア経済会議の中で議論し、来年の２月から、議論のしっ放しではなくて問題解決に向かって何ができるか、もうちょっと突っ込んだ話をしたいと思っております。できるだけ、今、参加されている経済学者、シンクタンクのメンバー、あるいは個人参加での自治体のメンバーの方を広く集めて、実際に問題解決の動ける体制を組んでいったらどうかというようなことを研究しております。韓国からもメンバーに入っていただいて、今、事前の協議をしているところであります。

日本と韓国、そしてこの経済の問題だけではなくて2002年の、まさにワールドカップと

いうのが新しい時代を切り開くのではないか。６月にお邪魔したとき、つくづくそのことを強く感じた次第でありまして、21世紀と一体となったこの時期が、まさにそういう時代的な両国の関係を、そして我々自治体同士の交流にも新しい展開を要請しているというように、私は感じた次第であります。

アジア文化祭における韓国の文化の紹介、あるいは環日本海駅伝におけるソウル市の参加等、たくさんの交流をさせていただいておりますけれども、いよいよ本当の意味の交流の時期に来たのかなと思っておりますので、韓国と日本、そして同時にこの北東アジア経済地域全体の関係としての発展を相互に、忌憚のない意見と改善に向けての、できることをやるということの意思の共通認識をもつことが必要だと思います。この会議も、そういう１つの場になれば、大変いいことだろうと、私は思っています。

○須賀龍郎／鹿児島県知事

鹿児島県知事の須賀でございます。よろしくお願いいたします。

鹿児島県はご承知のとおり南北 600キロメートルにわたる大変大きな県土をもっております。そして、気候的には大変温暖であって、また優れた自然環境や豊富な温泉などに恵まれております。産業といたしましては、農業･水産業は極めて盛んでありますけれども、そのほか先端技術企業も多数立地をしているところであります。

韓国との交流につきましては､現在､ソウルとの間には大韓航空が週３便就航しており、その利用率も 80パーセントを超えているという状況であります｡この路線を通じまして経済・文化・観光、各面における交流が現在盛んに行われているところであります。

鹿児島県は、韓国を始めアジア諸国に大変近いということから、南に開かれているという地理的特性から歴史的には中国からの鑑真和上の渡来またはポルトガルからの鉄砲伝来、ザビエルの日本におけるキリスト教伝導の第一歩が鹿児島だったと、このように我が国への外来文化渡来の玄関口として古くから諸外国との経済･文化など各般にわたります交流が活発に行われているところであります。

大韓民国の全羅北道との間におきましては、1989年に「友好協力の推進に関する共同宣言」に調印をいたしまして、民間や行政レベルにおきまして、さまざまな交流が現在活発に行われてきているところであります。特に昨年は、本県の代表的な伝統工芸品であります薩摩焼の陶芸技法が韓半島から渡来いたしまして 400周年という節目の年に当たりましたことから､駐日韓国大使や韓国全羅北道知事を初め､多くの方々をお招きいたしまして、

「日・韓，食と文化の交流」など、薩摩焼発祥 400周年にちなみましたいろいろな記念イベントが盛大に開催され、またその後、小渕総理大臣並びに韓国の金鍾泌国務総理を初め、日韓両国の閣僚の皆様方による、日韓閣僚懇談会が本県で開催されたところであります。これからは、日韓の友好関係の一層の発展に資することはもとよりでありますけれども、南の交流拠点の形成を目指しております本県にとりましても、大変意義深いものがあったと考えております。

また、全羅北道におきましては、これまで定期的に交流会議というものを開いてきております。今年は先ほど申し上げました「友好協力の推進に関する共同宣言」調印以来、ちょうど10年目に当たりますことから、新しい世紀に向けて、一層の交流促進と友好のきずなを深めますために、相互協力確認書を取り交わしましたほか、行政、地域振興、経済、観光など、それぞれの分野におきまして、熱心な意見交換も行ったところであります。

そしてまた、この10周年にちなみまして、各種の記念行事も行われております。この中で、全羅北道では、今年の９月７日を鹿児島の日として宣布されたところであります。このほか韓国との交流につきましては、自治体国際化協会ソウル事務所へ、本県の職員を駐在させておりますし、また本県や県内の市町村におきまして、国際交流員を韓国から招聘をいたしておりますのを初め、市町村、青年会議所、高等学校、大学、民間テレビ放送などにおきましても、韓国との相互交流が活発に行われております。

また、全羅北道には、今年の３月、「アジア鹿児島クラブ」というのを設立いたしました。この「アジア鹿児島クラブ」は、全羅北道と香港、並びにシンガポール、３カ所に設立をいたしております。今後、さらにこの「アジア鹿児島クラブ」のネットワークをつくっていきたいと考えているところであります。

今後とも、本県と韓国との交流を促進することによりまして、さらなる相互理解、そして友好親善のきずなが一層深まることを心から期待を申し上げまして、私の発言とさせていただきます。ありがとうございました。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

私、ソウル市長でございます。これまで皆様方は、それぞれの地域における交流をさまざまな形で進めていらっしゃるということ、また今後も持続されるというご意見をお伺いし、謝意を申し上げます。

ソウルに対する紹介は省略させていただきます。議題に関連し、重点的に３つ、要約し

てお話しさせていただきたいと存じます。

まず最初に、会長もおっしゃいました、両国の地方自治の発展のために共同で図っていくという課題でございます。両国の地方自治が当面しています共通の課題は、中央政府の権限を地方に、さらに移譲していくという地方分権の促進と思っております。実際、地方自治の定着のためには中央と地方における機能再配分と財源の再配分が必ず実現しなければいけないと思います。日本では、1995年から地方分権推進法を制定し、その後、地方分権推進委員会を中心に分権化を活発に進めているものと思われます。韓国におきましては、今年１月、中央行政権限の地方移譲促進法を制定し、大統領直属で地方移譲推進委員会を構成し、地方分権に取り組んでいます。私は、両国の市道知事の会議が、今後もこのような両国の地方分権の促進に対する情報と行政経験を随時活発に交換することによって、情報の共有を通じ、両国の地方自治の発展に大いにプラスに働くと思われます。

第２に、2002年のワールドカップサッカー大会を成功裏におさめるためには、両国の知事たちがお互いに協力していく必要があると思われます。両国の間には、既にワールドカップ韓日共同開催地の地方自治体首長協議会というものがあります。そしてこの中で、お互いに協力していっているものと思われます。私はその議長を務めさせていただいております。両国の知事会議、そして皆様方が、2002年のワールドカップの成功的な開催のために、今後とも積極的な協力をお願い申し上げます。

３つ目ですが、実務レベルでお互いに共感を得たと思われます。そして、この会議を定例化させ、２年おきにお互いの両国で開催するということを、ここで決めたいと思います。そして、実務協議を活用するということも、こちらもあわせて議決をしていただけたらと思われます。ありがとうございました。

○青山　・／東京都副知事

東京都の副知事でございます。大韓民国の代表団の皆様ご一行におかれましては、本日、午前中に東京都知事に対して表敬訪問をしていただきました。この席を借りて感謝を申し上げます。東京都知事は、その後、北九州市にまいっておりますので、この会議には副知事の私が代理で失礼をいたしております。

先ほど、代表団会長のソウル特別市長から、両国の友好都市提携を一層進めていく必要があるというお話がございました。東京都は、既に1988年にソウル特別市と友好都市提携を行っております。職員の人事交流を初め、スポーツの交流、あるいは高校生の交流事業

等を盛んに行っております。そして現在、東京都議会の友好代表団として、都議会議員８名が、韓国を訪問中でございます。皆様のお世話になっていることと思います。

東京都は日本の首都であり、全国最大の都市でございます。しかも全国、あるいは世界を対象とする本社機能、あるいは金融機能、情報機能などの広域的な機能が集積しております。そして、超高層ビルが林立しております。しかし、道路と空港が未整備でございまして、道路の渋滞、その他、皆様にご迷惑もかけております。そこで今回、日本側の全国知事会の会長でございます埼玉県の土屋知事さんを含めて、関東地方の自治体で結束して、そういった道路の渋滞をなくすという努力をしております。

またあわせて、本日午前中、都知事のところでソウル特別市長さんからもお話があったと、都知事から承ってまいりましたけれども、2002年のワールドカップを機会に、羽田空港を含めて、さらに交流をできる空港の機能の向上を図ったらどうかといったお話が出たというように聞いてまいりました。東京都は、かねてから、政府に対して羽田の国際化の要望もしております。今後とも、もちろん地道な職員の相互派遣、あるいは技術交流等を進めていくことが基本でございますが、それとあわせて、そういう交流の基盤となる整備についても、お互いに努めていくことが必要だと思います。東京都としても、それに対して努力をしてまいりたいと存じますので、どうかよろしくお願いいたします。

○長澤純一／福岡県副知事

福岡県は、古来、日本における諸外国との交流の窓口として、海外の文化を最も多く受け入れてきた地域でございまして、現在におきましても、世界に開かれた県づくりを目指して海外の諸地域との交流を積極的に進めているところでございます。私どもは、アジアの交流拠点を目指すと、こういうキャッチフレーズで今、進めているところでございます。

特に、最も近い隣国であります韓国とは、大変活発な交流が行われておりますけれども、この現状につきましては、時間の関係で省略をさせていただきまして、今後、先ほどアジアの交流拠点を目指すというように申し上げましたけれども、今、４つの視点でそれに取り組んでおりますので、それにつきまして、ご紹介をさせていただきたいと思います。

１つ目は、産業分野における交流拠点としての役割を果たしていくということでございます。本県がアジア諸地域とともに発展していくためには、技術交流というのが不可欠であると考えております。そこで私どもは、アジア太平洋技術取引センター構想というのを提唱しております。このセンターは、休眠特許や大学などの研究成果の実用化を図るとと

もに、技術情報の収集提供、取引機能を備えた国際技術取引拠点を構築しようとするものでございます。本年10月に、北九州市で開催をいたしましたアジア産業交流フェアには、韓国からも80社の出展をいただきまして、技術を核とした韓国との経済交流の一層の促進に期待を寄せているところでございます。

２つ目は、アジアとの文化面における交流拠点としての役割を果たしていきたいと考えております。ここでは、１つに絞りましてご紹介をさせていただきたいと思いますが、本県の太宰府の地に、九州国立博物館が建設されることとなっております。この博物館の関連施設といたしまして、アジアとの交流に関する情報の収集発信機能をもちます県立アジア学術・文化交流センターを設置することとしております。これらの施設におきます研究を核にしながら、アジアに関する研究と情報発信機能をより一層高めることで、本県をアジアの知的センターにしていきたいと考えているところでございます。韓国の資料も是非、お寄せいただきまして、ご協力をいただければ幸いに存じます。

３つ目は、人材育成における交流拠点としての役割を担うことでございます。本県には、30の四年制大学を初めとする高等教育機関が集積しております。現在、これらの大学において 2,200人を超えるアジアを中心とした留学生が学んでおりまして、うち 323人が韓国からの留学生でございます。留学生は、将来、それぞれの国を担う有望な人材でありまして、本県との友好関係をつなぐ架け橋ともなる存在であると思いますので、これらの留学生が安心して留学生活が送れるように、その就学環境の整備に努めてまいりたいと考えております。

４つ目でございますが、環境技術に関する交流拠点としての役割を果たしてまいりたいと考えております。先ほど新潟県の知事さんからも環境問題が今、大切だというお話がございましたけれども、世界の経済成長に伴いまして、都市や環境問題の解決が、今、地球的規模で大きな課題となっております。本県では、これまでに北九州工業地帯を中心としまして、大気、水質の汚染等の公害や、福岡市を中心としまして渇水などを克服してきた経緯がございます。その過程で、さまざまな環境技術を蓄積してまいりました。現在、ごみを固形燃料化して利用しますＲＤＦ発電や節水型住宅の開発、リサイクルシステムの実用化など、新たな取り組みも進めておりまして、これらのノウハウを積極的に提供していくことが重要だと考えております。また、先ほど山口県さんからご紹介がありました、日韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議の共同交流事業として取り組んでまいりました酸性雨共同調査研究は、日韓両地域における酸性雨の実態把握ができたことはもちろん、国内外

の複数の自治体同士での共同調査は初めてのことでございまして、先駆的な事例として評価しているところでございます。

以上の４点につきまして、ご紹介をさせていただきました。このたびの日韓知事会議を契機といたしまして、日韓の地域レベルの交流がより一層促進されることを願いまして、私の発表とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○梶本徳彦／大阪府副知事

大阪府でございますが、簡単に現状と今後の取り組みについてご説明を申し上げたいと思います。

大阪は、なにわ津と呼ばれた古代から、朝鮮半島、中国などと国際交流が盛んであり、さまざまな文化が行き交ってまいりました。そういう経過もございまして、大阪には韓国ゆかりの史跡もたくさんございます。特に５世紀ごろに百済から日本に渡来し、日本に論語や千字文を伝えたとされる王仁博士の墓が大阪府の枚方市というところにございます。毎年、王仁博士の偉業をたたえて、王仁祭が開催されております。本日、全羅南道の許京萬知事もおみえでございますが、ご存じのとおり、王仁博士の生誕地は全羅南道の霊岩郡で、祭のときには同郡の方が毎年来ていただいて、昨年も霊岩郡の金郡守さんから府庁を表敬していただき、私もお会い申し上げました。次回には是非、許京萬知事さんにもまたおみえいただければ、大歓迎したいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それから、現在に目を向けますと、1990年から古代の大阪の、優雅で豊かな国際交流を数千名の巡行を中心として現在に再現するということで、「四天王寺ワッソ」という祭を毎年11月３日に行っておりまして、今年で10年目になり、すっかり大阪に定着をしております。今年は50万人の参加で過去最高でございました。これは、日本最古のお寺でございます四天王寺と、それから在日韓国・朝鮮人の方々が中心となって開催されているものでございまして、是非また韓国でもご宣伝をいただいて、参加をしていただければと思っております。

このほか、大阪には約16万人の在日韓国・朝鮮の方々が居住をしておられまして、私どもは地域の重要な構成員と考えております。そういうことで、在日の方々と中学生のサッカー大会でありますとか、あるいは青少年の交流、福祉、介護、住宅、そういった面での幅広い交流事業を行っておりまして、これからも展開してまいりたいと思っております。

それから大阪には、ご承知のとおり、我が国初の24時間空港である関西国際空港がござ

いまして、世界30カ国、66都市と結ばれておりますが、特に韓国とはソウルと週 106便、釜山と38便など、４都市週 154便の定期航空便が就航しておりまして、平成10年度の統計によれば、約30万人の方が関西国際空港を利用して、韓国から日本に入国されており、日本から韓国を訪問する方々のうち、17万人が関空を利用されております。今年から２期工事にかかっておりまして、2008年のオリンピックに備えて、2007年に２本目の滑走路の供用開始の工事を行っておりますが、この工事には、韓国の海砂、これも工事用資材として使用しているところでございます。２本目の滑走路が供用されれば、さらに交流が活発になるのではなかろうかと思っております。

最後に、大阪と韓国との将来に目を向けたいと思いますが、昨年10月、金大中大統領が国賓として来日され、大阪に滞在され、未来に向かってどうあるべきかという観点から非常に感銘的なスピーチをしていただきまして、参加者、それから多くの府民が大いに感銘を受けたところでございます。その中で、とりわけ日韓の文化交流が重要であるということが述べられまして、今年３月、大阪の韓国総領事館内に韓国文化院が開設され、府としても、日韓の文化交流の拡大に特に重点を置いて取り組んでいきたいと考えております。

それから、ワールドカップサッカーに加えて、2001年に世界観光機関、ＷＴＯと申しますが、世界観光機関の第14回の総会がソウルと大阪で開催をされます。2001年の９月24日からソウルで、後半の４日間、10月１日の最終の会議を大阪でというようになっております。世界各国から数千名の方々が会議に参加されますので、是非またご出席の皆さん方は観光について、いろいろ、ＷＴＯの総会をご利用いただければと思っております。これらの機会を生かしまして、韓国の方々により一層大阪のことを知ってもらい、交流の拡大を図っていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○井戸敏三／兵庫県副知事

兵庫県副知事の井戸でございます。御礼とそれからご報告をさせていただきたいと存じます。

まず、もう４年10カ月前になるわけでありますけれども、阪神・淡路大震災に遭遇いたしまして、特に本県には約７万人の在日韓国・朝鮮の方々が住んでおられるわけでございますが、被災地には、その70パーセント、５万人の方が居住しておられまして、不幸にも約 130名の方々がお亡くなりになっておられます。心から哀悼の意を、改めて表したいと存じます。震災直後の４月13日には、当時、アジア太平洋平和財団の理事長でいらっしゃ

いました金大中大統領がご夫人とともに来県していただきまして、被災地をお見舞いいただいたわけであります。この10月21日には、私どもの貝原知事が訪韓の上、大統領にお目にかかり、改めて御礼を申し上げました。このほか、韓国政府はもとより、地方自治体、民間団体をはじめとする非常に数多くの方々から、物心両面にわたりまして、大変心温まるご支援をいただいております。改めまして、心からお礼を申し上げたいと存じます。

あの大震災から、間もなく５年が経過しようとしておりますが、ようやく年内には仮設住宅の入居者がゼロになる見込みでございまして、皆様方のご支援のおかげだと存じております。特に被害の大きかった神戸市長田地区、ここはケミカルシューズの生産等で有名な地区でありますけれども、その復興の１つとして、アジアコーリアタウン構想という形で拠点整備を進めようといたしておりますので、今後ともいろいろな意味でのご支援、ご協力を賜ればとお願い申し上げる次第でございます。

本県と韓国との交流でございますけれども、1994年に本県で、「北東アジア地域自治体会議’94」という会議を開催させていただきましたが、これが地域全体の発展を目指そうという、「北東アジア地域自治体連合」の設立に結びついたところでございます。現在、中国、ロシア、モンゴルのほか、日本からは主として日本海側に位置する10県、韓国側からは９道すべてのご参画をいただいていると承知しております。2000年から２年間は、兵庫県がこの自治体連合の議長自治体を務める予定でございます。来年の総会は本県で開催をさせていただくことになっております。韓国の自治体との交流を一層推進してまいりたいと考えているところでもございますので、さらなるご協力をお願い申し上げたいと存じます。

自治体間の交流といたしましては、私どもの本県北部の出石町が慶尚北道の慶州市と、それから三田市が済州道北済州郡と姉妹提携を結んでおりますし、大学レベルでは、県立の姫路工業大学と東亜大学校との間で学術交流協定を締結いたしているところでございます。一方、産業分野では神戸製鋼所やアシックスをはじめとする企業が韓国で活動しておりますし、釜山市と神戸市が港湾都市でありますことから、釜山の商工会議所と神戸の商工会議所が業務提携を10年前に結んでいるところでございます。今後とも経済、産業交流による経済関係の強化に努めたいと存じます。

最後に、お手元にパンフレットを用意させていただいていると思いますが、来年の３月から淡路島で「ジャパンフローラ2000」という、国際的な花の博覧会を開催させていただくことにいたしております。この地域は、もともと土取跡地でございまして、その自然を

復元することをめざしておりますが、その会場で花の博覧会を開催しようといたしているものでございます。光州広域市から「国際庭園」にご出展をいただくことになっておりますほか、江原道をはじめとする４自治体から、「花の館」にご出展いただくことになっております。博覧会の会期は、来年の３月から６カ月間の開催を予定いたしておりますので、どうぞご来県をお待ちいたしている次第でございます。

以上、本県の紹介等は省略させていただきましたけれども、来年、自治体連合の総会も開催されますし、花博も開催されることでございます。これを契機に、さらに交流が深まることを念じて、ごあいさつと報告とさせていただきます。

○木村　功／京都府副知事

京都府副知事の木村でございます。今日は第１回の知事会議に出席をさせていただきまして、大変光栄に存じております。時間もございませんので、ごくごく簡単に京都の概要と取り組みについてご報告をさせていただきたいと存じます。

ご案内のとおり、京都は千数百年にわたりまして、日本の政治、経済、文化の中心として栄えてきたわけでございまして、それにつきましては、細かいことは省略いたしますが、貴国の言葉、ハングルで書いてあるパンフレットがございますので、これをご覧いただきながらお聞き取りをいただければと存じます。

実は平安京とかつて申しておりましたけれども、この京都は、当時の秦氏（はたうじ）という韓国から渡来された方々に大変お世話になって、平安京ができたという歴史をもっております。そういう中で、京都につきましては、長い歴史の中で茶道とか華道でございますとか、能、狂言など日本を代表する文化の中心地、あるいは西陣織等に象徴されますような伝統の産業が大変盛んでございますけれども、一つ強調しておきたいことは、京都は必ずしもそういった伝統的な産業だけではなく、先端産業、特にコンピュータの制御関連、あるいは精密測定機械等、大変優秀な企業が多いということでございます。具体的に申し上げますと、例えば京セラ、オムロン、堀場製作所、ローム、こういった日本を代表するような最先端の企業がございます。京都のこうした企業が数十社にわたって韓国で工場をつくらせていただいて、操業させていただいております。1,000人以上の従業員の方々を抱える企業も４、５社ございます。ということで、京都出身の企業は大変お世話になっておりますし、これが貴国の経済の発展にいささかでも役に立てばということを大いに期待しているところでございます。

それからもう１点、申し上げておきたいわけでございます。京都はどうも内陸部というようなイメージがあるかもしれませんが、京都府は日本海にも面しております。特に昔から天然の良港といわれております舞鶴港という港がございます。ここは、日本政府から輸入促進地域、ＦＡＺといいますけれども、そういった指定を受けまして、活用されております。ここでの貿易量、特に釜山港との貿易量はどんどん増えておりまして、取扱高のうちの大半を占めているということでございます。私ども、この舞鶴港の振興、あるいは港湾の整備について、今、一生懸命力を入れておりまして、今後とも貴国と協力しながら、お互いの発展のために努力をしてまいりたいと考えております。

また、国際交流に関しましては、細かくは申し上げませんけれども、京都では、これから数年以内に日本を代表するような伝統的な日本風の建築物といたしまして、和風の迎賓館を京都御所の中につくる予定でございます。そういうことを通じまして、引き続き、日本の国際交流の一つの核として、私ども一定の役割を果たしてまいりたいと考えております。また、京都は大学の町でございます。京都には、留学生の方々が 2,500人ぐらいいらっしゃるのですが、このうち 500人の方々は貴国の方々でございます。そして、その方々のうち、特に京都のファンになっていただこうということで、ユニークな取り組みといたしまして1992年、今の私どもの荒巻知事の発想で、「京都府名誉友好大使」の任命をはじめさせていただきました。これは、奨学金等を支給させていただくということも含めまして、韓国と日本の架け橋になっていただこうというものであります。現在、全世界で 65人の大使がいらっしゃいますけれども､そのうち 12人の方々が韓国の若い方でございます。こういうことを通じながら、引き続き、貴国との友好交流について一定の役割を果たしていきたいと存じますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。

最後になりますけれども、日本の文化、伝統を理解する上で、是非、四季折々大変美しいところでございますので、京都を一度ご訪問いただければ、大変ありがたく存じます。簡単でございますけれども、私からの報告といたします。

○大竹邦美／佐賀県副知事

佐賀県副知事の大竹でございます。佐賀県は九州の北西の端に位置し、すなわち日本の北西の端に位置するところにあります。その地域特性からいたしましても、古来から韓半島と中国大陸との交流の窓口となってきた地域でございます。時間の関係がございますので、過去の交流の歴史は省略させていただきまして、先ほどから話題になっております日

韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議の報告をさせていただきたいと思います。

九州北部３県（福岡県、佐賀県、長崎県）では、従来から知事会議を開催しておりました。1990年にこの知事会議が対馬で行われまして、その際に、３県で共同して、対岸の韓国の地方自治体との交流の場を設けたらどうかという発想が生まれました。それから２年後の1992年に第１回目の「日韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議」というものが、韓国済州道で行われました。構成メンバーですが、日本側からは九州北部３県の福岡県、佐賀県、長崎県の３県、それから韓国側からは釜山広域市、全羅南道、慶尚南道、済州道の４市道、合計７つの県市道でございます。

それから、第１回目の1992年から交互に、それぞれの国で開催されているわけですが、今年で８回目になり、ちょうど１巡し、２巡目に入ったわけでございます。この知事会議ですが、特色は、単に会議の開催にとどまらず、両地域の相互発展のために、いろいろな分野におきまして、具体的な共同交流事業を行うところに特徴があろうかと思っております。現在、８つの分野におきまして、それぞれの実務的な会議を設けながら、共同交流事業が行われているところでございます。

今回は、９月６日から９月８日にかけまして、私ども佐賀県唐津市において、第８回目の知事会議が開催されました。今回から２巡目となりますことから、交流の現状や今後の課題、さらには両地域の共通の課題について、意見交換を行ったわけですが、８年間の実績を踏まえまして、極めて実りのある会議となっております。

特に、今回から２巡目となりまして、新たに山口県が参加され、合計８団体で行うわけですが、２巡目を迎えるに当たりまして、住民に開かれた知事会議を基本理念として掲げるということで、従来はこの知事会議、非公開でしたが、今回、初めて住民の皆様方にも公開するようにしております。そしてまた、韓国の知事さん方と佐賀県の住民との意見交流の場を設けるということで開催されたわけでございます。さらに８県市道の知事さん方が、佐賀県で韓国語を正課としている県立高校を訪問していただきまして、高校生たちと意見交換の場を設けていただいたということでございます。意見交換を行いました住民の方々、あるいは交流会に参加しました高校生の方々からは、日韓両国の知事さんと親しく語り合えたことに対しまして非常に感激すると同時に、日韓の近さというものを身近に感じたということで、高い評価をいただいているわけでございます。

こういった形で、民間に開かれた、住民に開かれた知事会議ということで、今後の知事交流会議のあり方に一定の方向を示すことができたのではなかろうか、さらにまたこのよ

うな試みを通じまして、今後の日韓交流に対する住民の理解と参加の気運の醸成に大きく寄与できたのではなかろうかと考えているわけでございます。今後、今回開催されたこの日韓知事会議、定例的に開催されると思うわけですが、私どもといたしましても、今まで行われてきました日韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議の成功を踏まえながら、これから協力体制をとっていきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

○出口啓二郎／長崎県出納長

長崎県でございます。長崎県と韓国は地理的に、まさに一衣帯水の関係にありまして、本県の離島である対馬から韓国釜山市までは49キロしかなくて、天気のいい日には肉眼でも釜山市がみえるというような状況でございます。また、歴史的にも対馬・壱岐は古くから朝鮮半島との交流の架け橋となった島でもありまして、中でも鎖国時代を通じて、対馬藩だけが朝鮮との交易が認められ、朝鮮通信使の活躍にもみられるように、特別に深いきずなを培ってきたところでもございます。

先ほど、佐賀県、福岡県さんから、「日韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議」について、詳しくご説明がありましたので、省略いたしますが、今年度の会議では本県の知事が日本、韓国、中国にまたがる漁業問題、特に漁業資源の保護の問題を取り上げました。これは未だ発効に至っていない、日中・韓中の新漁業協定の早期締結に向けて、各県市道でそれぞれの政府に対し、歩調を合わせて要請しようとの提案でありました。各知事、市長さん方の活発な議論が行われたところでございます。

次に、「芳洲外交塾」でございますが、歴史的にも日韓交流の大きな役割を果たしてまいりました対馬を、再度、今後の日韓交流の拠点と位置づけ、江戸時代に対馬藩に仕えた儒学者である雨森芳洲にちなみまして、1995年から芳洲外交塾を開講しております。これは、雨森芳洲がその著書で述べておりますように、「お互いに欺かず、争わず、真実をもって交わることこそ真の交流である。」という外交の理念を現代の日韓交流に生かそうとするものでございまして、毎回、日韓各30名、合わせて60名の塾生による公開講座、意見交換会やキャンプなどを通して、日韓の相互理解と友好交流を深めるとともに、今後の日韓の交流のリーダーを育成し、あわせて対馬の活性化を図ることを目的としているものでございます。今では、塾生ＯＢ間のネットワークができるなど、事業の成果は着実に上がっているものと理解をいたしております。

第３番目は「長崎ソウル事務所の開設」でございますが、本県と歴史的地理的にも密接

な関係にある韓国と経済、観光、水産、文化及び青少年等の各分野における一層の交流を図るために、平成５年の２月、ソウル特別市内に独立した事務所を設置いたしております。陣容は県職員の所長が１名、地元の職員２名、及び顧問１名の４名体制で運営をいたしております。国際観光立県ながさき21推進事業の柱の１つである韓国観光誘致対策事業の支援活動、長崎 - ソウル定期航空路線再開支援活動や県内経済団体の貿易、経済取引支援活動などを行っております。特に、長崎 - ソウル定期航空路線につきましては、現在、県を挙げて再開に向け、努力をいたしているところでございます。再開となった場合には、皆様方のご協力を得て、交流促進を進めてまいりたいと考えております。

また、本県では県、市町村とも韓国との交流が非常に活発に行われております。長崎港と釜山港との間に定期コンテナ航路が、対馬と釜山の間に不定期ではありますけれども、高速旅客船航路がともに、今年の７月から開設されており、これを機に、本県と韓国との人的、物的交流がより一層盛んになることを期待しているところでございます。

○外山邦夫／大分県出納長

大分県でございます。1992年にソウルと大分間に定期航空便が就航いたしまして、それ以後、本格的な交流が始まったような感じがいたします。特に本県の場合、別府、湯布院という温泉地、また海、山、豊かな自然に恵まれております関係で、現在も多くの韓国の方々が来県をしていただいております。先般、金大中大統領から、本県の平松知事が観光振興に功績があったということで表彰いただいたわけであります。また、2002年のワールドカップサッカーの開催地の１つになっておりまして、サッカーを通じまして、いろいろと交流を深めてまいりたいと考えております。

それから、来年の４月、本県の別府市に立命館アジア太平洋大学が開学をいたします。これは、１学年 800人、４学年で 3,200人になるわけですが、そのうちの半分、 1,600人を、韓国を初めとするアジア地域の留学生に充てるというようなことにしております。そういった意味で、21世紀、次代を担う国際人豊かな若者の育成の中核にしたいと考えているわけであります。どうか皆さんの地域から若者が留学をされるよう、お願いを申し上げまして、簡単でありますが、ごあいさつとさせていただきます。

（３）日韓知事会議開催要領について

○紀内隆宏全国知事会事務総長

日韓知事会議開催要領（後掲）の資料をご覧いただきたいと思います。この会議の開催につきまして、事務レベルで事前に折衝を行った際に両国の事務局間で調整を行いました。その結果、第１に目的といたしまして、両国の地方公共団体の首長が幅広い分野についての意見や情報を交換することによりまして、それぞれの地方行政の発展に資するとともに、地方公共団体間の交流を促進し、相互の理解及び親善を深めることといたしております。

第２に内容といたしまして、まず、さまざまなテーマに関する意見の交換、次いで代表団の相互訪問による交流の強化、さらに地方の行政、産業、文化等の現地視察を挙げております。今後は、先ほど高建会長さんからご指摘のあったような観点を踏まえて進めていくべきであろうかと考えます。

第３は開催の形態についてでございますが、２年に１回程度、日韓交互に開催をすることといたしまして、開催国側が相手国側の代表団を招待するということといたしております。具体的には、明後年、2001年に韓国側で開催される予定ということに相なります。

第４は、第１回の会議の開催でございまして、現在、行っているところであります。このほかに、第５として費用負担の考え方、第６としてその他細部については両国の事務局間で検討、協議するということに触れております。以上でございます。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

２年に１度、交互に開催する、そして主催側が相手国側を招待するという原則に、私も同感いたします。ただ１つ、代表団の人数ですけれども、今年は15人以内ということになっていますが、2001年には、つまり韓国のソウルで開催する際には、この人数については少し見直しをしたいと思います。15人に制限をするということになりますと、日本側の大勢の知事の方々にいらしていただけないということになるかと思いますので、ちょっと見直しをさせていただきたいと思います。

○紀内隆宏全国知事会事務総長

具体的な希望の状況に応じて、ご相談させていただきたいと思います。

○議長　土屋義彦全国知事会会長／埼玉県知事

他にご発言がないようでございますので、今後、この要領に基づきまして日韓知事会議を推進してまいることといたしたいと存じます。いかがでございますでしょうか。

（満場拍手）　それではさよう決定させていただきます。

（４）閉会挨拶

○土屋義彦全国知事会会長／埼玉県知事

閉会に当たりまして、日本側を代表いたしまして、ごあいさつを申し上げさせていただきます。

皆様方、本日は大変、ご熱心にご討議をいただき、おかげさまで極めて実りある会議となりましたことを、本当に心から感謝いたします。現在、日韓共同宣言21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップにおいても、両国間の地域間交流を積極的に推進していくことが宣言をされております。そういう意味では、今日の会議によりまして、両国自治体レベルの交流を一層促進する意義が確認されましたことは大変喜ばしいことであり、日韓両国の知事、市長の相互の訪問が、これを機に永続し、拡充されていくことを心から期待をいたしております。

終わりに、この日韓知事会議の一層の発展と、ご出席の皆様方のご活躍とご健勝をお祈り申し上げてまして､閉会のごあいさつとさせていただきます｡ありがとうございました。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

尊敬する土屋義彦会長、そして両国の知事の皆様、第１回韓日・日韓知事会議がこのように成功のうちに幕を閉じることになりましたことを、大変嬉しく思います。両国の地方自治の発展と交流協力の拡大に向けて、すばらしい提案をされ、また真摯な姿勢で討議に臨んでくださった両国の代表の皆様に、深く御礼申し上げたいと思います。

私は、本日の会議が両国の地方自治の発展に寄与し、また21世紀のアジア太平洋時代のパートナーシップを強化する、すばらしい契機となったと信じております。今後、この知事会議がさまざまな行政の経験と情報を共有できる、真の協議体として発展し、両国自治体住民の生活の質的向上に資することができるよう、願っております。

最後に、このたびの会議の準備のため、ご尽力いただきました土屋会長を初めとする知事の皆様、そして関係者の皆様に敬意とそして感謝の意を表したいと思います。2001 年に韓国で開かれる第２回韓日・日韓知事会議の際、日本の代表団の皆様にいま一度お目にかかれることを念じながら、皆様のご健勝をお祈りいたしたいと思います。ありがとうございました。

３．共同記者会見

○土屋義彦全国知事会会長／埼玉県知事

このたび、第１回日韓知事会議の開催に当たりまして、大韓民国から全国市・道知事協議会を代表されまして、隣においでになられます高建会長を初めとする３名の市・道知事が、大変お忙しい中にもかかわらず、お出ましをいただきました。

このことにつきましては、韓国側の知事の皆様方に深く感謝を申し上げます。

この会議の開催につきましては、本会はかねてより韓国側にご提案を申し上げていたところでございますが、韓国側におかれましても、本年の１月、日本の全国知事会に当たります全国市・道知事協議会を結成をされ、これを機会に日本側の提案を快くお受けいただくことになりまして、本日、この会議の開催の運びと相なった次第でございます。

昨年、大韓民国の金大中大統領が訪日されました折り、未来志向で日韓両国の交流を促進していくことを内容とする日韓共同宣言が発表され、その実行計画である行動指針にも地方自治体間の交流を促進することが盛り込まれております。

また、2002年にはワールドカップサッカーが日韓両国の共同で開催されることになっております。

日韓知事会議のこのたびの開催は、まことに私は時宜を得たもので、その意義は大きいものと考えております。

本日の会議におきましては、「日韓の交流拡大及び地方自治の発展について」を議題といたしまして、出席者からそれぞれ関心のあるテーマについてお話をいただき、意見の交換を行っていただきました。両国から活発な発言があり、出席者には今後、それぞれの地域における行政に生かしていただけるものと確信をいたします。

この会議を機に、両国自治体間の交流や姉妹提携が現在行われておりますもの、新たに始められるもの、ともに活発化されることを期待をいたしております。

なお、本日の会議におきましても、両国の相互訪問事業として、２年ごとに開催することで合意をされましたので、次回は2001年に韓国で開催をされることに相なりました。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

皆さん、こんにちは。まず私たち韓国代表団を招請してくださり、温かくお迎えしてく

ださいました土屋義彦会長を初めとして、日本側の代表団の皆様に深く感謝いたしております。

今日の会議では、両国の地方自治の共通の発展と交流拡大のために、両国の代表団の間に真摯な意見交換があり、そしていろいろ提案がございました。私は、今回の会議が韓国と日本両国の首脳会談で合意された、新しい21世紀における韓国・日本のパートナーシップを築き上げる実質的な貢献をし、そして両国の自治団体がお互いの行政経験と情報を共有することによって、両国の自治団体の住民たちの生活の質の向上に大きな役割をすることと思います。現在、韓国・日本両国の地方自治団体は70余の姉妹関係をもっております。今日の会議を機会にして、現在結ばれているか、または新しく結ばれる姉妹関係の締結がより活発に進行されていくと思います。私は、両国の自治団体の住民たちが、今後、ますます頻繁な文化交流と人材の交流を通じて、お互いを理解し、親善を図ることを確信いたしております。

今日の会議では、韓・日両国が共同で開催する2002年ワールドカップの大会を成功裏に成し遂げるために、両国の自治団体が協力し合うということにおいて、よりそれを強化させることに合意いたしました。今日の会議では、今後、韓日・日韓知事会議が２年ごとに両国で交代で開かれることに合意いたしました。したがいまして、2001年度には韓国で第２回の会議を開催する予定でございます。引き続き、韓国・日本両国の地方自治団体間の交流を拡大させ、ひいては両国の国民の皆さんのために、皆様の参加と声援をお願いいたす次第でございます。ありがとうございました。

○質疑（高建会長に）

日本の場合ですと、来年４月から地方分権推進一括法の施行というような形で、地方自治が具体的に進展する、大きく動き出すというようなことですけれども、韓国の方は現在、どのような状況になっているのかということ。それと、今日の会議を踏まえて、地方自治の拡大というようなことで、もし韓国サイドから、こういうところが参考になったということがあれば、具体的にちょっと聞かせていただきたいと思います。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

日本も韓国も同じく、地方自治の発展をともにしなくてはいけないということは、先ほども強調した次第でございます。日本も韓国も、地方自治において最も重要なことは中央

の機能を地方に分散させることでございます。日本においては、1995年から地方分権についての作業が進められていると伺っております。韓国においては今年、1999年の春、中央集権を地方分権という形に変えて、今、その作業が推進されている途中でございます。韓国も日本も、中央の権限を地方に分散させることを促進させることがまず大事なことでございます。

〇質疑（高建会長に）

先ほどの会議を聞いていて、個々の自治体の交流は活発に行われていると思いましたけれども、市長、知事間の会議というのがむしろ遅かったのではないかというような気もします。高建会長に、今度の第１回日韓知事会議、参加知事さんの数でちょっと淋しいような気もしたのですが、いかがでしょうか。

〇高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

市・道、地方においては、その経済とか人材の交流が活発に行われてはいましたけれども、この市・道知事の今回の交流は本当に遅い感はありますが、まことに意義深いと思います。

韓国と日本の間では、お互いの中央政権の間では非常に活発な交流がありましたけれども、各地方自治団体の長の集いは今回が初めてでございます。その意味においても、今回のこの会議を開催してくださいました土屋会長に厚く御礼申し上げます。

まず韓国における16人の市・道知事の中で、会長・副会長の３名が参加したのには、それだけの理由があります。その理由は、まず現在、各地方で議会が開かれている最中で、市・道知事が参加できなかったわけでございます。次は、弁明がましい言葉でございますけれども、参加者の数を15名に制限しておりましたので、今回、随行員を含めて12名がやってまいりました。そういうことを踏まえて、先ほどの会議で、この次のソウル開催の時は、15名という人数の制限なしに、増やしたいということを申し上げました。

〇質疑（高建会長に）

2002年に日韓でワールドカップが開催されます。今回、横浜と埼玉の競技場を視察することになっているが、その辺の感想などをお聞かせください。

○高建大韓民国「全国市・道知事協議会」会長／ソウル特別市長

横浜と埼玉の競技場は明日視察することになっております。その際、いろいろと学んで帰るつもりでございます。直接は明日視察しますが、この６月にソウルで開かれたワールドカップ開催自治体首長会議では、活発な意見交換がなされ、いろいろの情報を事前に得ております。

Ⅲ 大韓民国「全国市・道知事協議会」代表団滞在日程

第１日　11 月８日（月）

時刻	行事等	同席者等
20:55	代表団　成田空港着（KE705便）	出迎え 大使館：政務公使 ソウル東京事務所長 クラファ東京事務所長 事務局
21:45	成田空港発　都内へ	
23:00	ホテル着	出迎え

第２日　11 月９日（火）

時刻	行事等	同席者等
9:10	ホテル発	
10:20～10:45	東京都知事表敬訪問 （都庁）	知事 外務長 国際部長 特別秘書 国政広域連携担当参事ほか
11:30～11:50	総理大臣表敬訪問 （官邸）	駐日大韓民国大使 土屋会長、事務局
12:15～13:40	昼食（麹町会館）	
14:00～16:20	日韓知事会議 （都道府県会館 知事会会議室）	
16:40～17:00	共同記者会見 （都道府県会館 410号室）	土屋会長 高建会長 安相英副会長、許京萬副会長 両事務局
18:00～19:30	会長主催レセプション （都道府県会館 101大会議室）	両国会議出席者 大使館：大使、政務課長 自治省：自治大臣、橘政務次官、事務次官ほか 自治体国際化協会：専務理事、事務局長ほか 地方公務員共済組合連合会理事長、地域総合整備財団理事長、地域活性化ｾﾝﾀｰ理事長、地域創造理事長、自治総合ｾﾝﾀｰ理事長、大韓民国民団中央本部副団長ほか 事務局
20:00	ホテル着	

第３日　11 月 10 日（水）

時刻	行事等	同席者等
9:00	ホテル発	
10:30～11:30	横浜国際総合競技場視察	県：企画部企画担当課長 市：収入役 　　企画局理事ほか 説明：横浜国際総合競技場副場長
12:45～14:15	駐日大韓民国大使主催昼食会 （大使公邸）	
15:00～15:30	自治大臣表敬訪問 （自治省大臣室）	平林政務次官 二橋事務次官 駐日大韓民国大使 土屋会長 事務局
19:00～21:30	夕食会 （東京ヴァンテアンクルーズ）	事務局
22:00	ホテル着	

第４日　11 月 11 日（木）

時刻	行事等	同席者等
8:30	ホテル発	
10:00～11:00	埼玉県営サッカースタジアム視察	県：住宅都市部長 　　総合政策部国際課長ほか 説明者：住宅都市部ｽﾀｼﾞｱﾑ局長
11:40～12:00	埼玉県知事表敬訪問 （知事公館）	県：知事、副知事ほか 議会：議長、副議長ほか 事務局
12:05～13:30	埼玉県知事主催昼食会 （知事公館）	県：知事、副知事ほか 議会：議長、副議長ほか 日韓友好埼玉県議会議員連盟会長 埼玉県議会ｻｯｶｰ振興議員連盟会長 大韓民国民団埼玉県地方本部事務局長 事務局 　　許京萬副会長ほか2名　帰国 　　15:55　成田空港発　KE002便
16:50	羽田空港発（ANA299便）	見送り 事務局
18:05	鳥取空港着	出迎え 総務部県民室長、福祉保健部次長、 総務部国際課長ほか
18:50	ホテル着	
19:20～21:00	鳥取県知事主催歓迎レセプション （ホテル内）	県：知事、総務部長、企画部長、 　　商工労働部長ほか 議会：議長 鳥取市長、日韓親善協会副会長、国際交流財団理事長ほか 事務局

第５日　11 月 12 日(金)

時刻	行事等	同席者等
8:45	ホテル発	
9:00 ～ 9:40	鳥取県知事表敬訪問 （議会棟特別会議室）	知事 総務部長 総務部県民室長 福祉保健部次長 総務部国際課長ほか
9:45～10:05	県立図書館環日本海交流室視察 （掛軸「漂流朝鮮人之図」等）	知事 総務部長ほか 説明者：館長
11:25～11:55	倉吉博物館・歴史民族資料館視察	総務部長ほか 倉吉市長、市議会議長 説明者：館長
12:15～13:00	昼食（花屋別館）	総務部長ほか 倉吉市長、市議会議長 赤碕町長
13:05	昼食会場発	見送り 総務部長ほか 倉吉市長、市議会議長 赤碕町長
18:00	関西空港着	
19:00	関西空港発（ＯＺ119便） （帰国）	見送り 駐大阪大韓民国副領事 県：総務部県民室長、福祉保健部次長、 総務部国際課長ほか 事務局